

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

企業論では、現代の経済社会の発展をリードしている企業について、その組織的特性と企業行動、そして組織の持続的発展に向けてのガバナンス機構、社会的貢献、さらにはグローバル時代の中での世界戦略を見据えた事業展開の変化などを、ものづくり企業での工場勤務や、中小企業振興を目的に設立された東京都商工指導所における企業診断、経営相談、業界調査研究などの実務経験に基づき、具体的な事例企業を取りあげながら講義する。

授業計画

第 1 回	企業とは何か
第 2 回	企業形態と株式会社などの特質
第 3 回	コーポレートガバナンスとは何か
第 4 回	日本におけるコーポレートガバナンスの諸問題
第 5 回	日本経済の発展と日本企業の果たした役割
第 6 回	日本的経営の特質と評価
第 7 回	日本産業と日本企業・自動車産業における企業行動の特質
第 8 回	日本産業と日本企業・電機産業における企業行動の特質
第 9 回	日本産業と日本企業・繊維産業における企業行動の特質
第 10 回	大企業と中小企業の事業展開の比較（具体例を通じて）
第 11 回	大企業と中小企業の取引構造の特質（具体例を通じて）
第 12 回	欧米企業と日本企業・企業再編とM&A
第 13 回	グローバル時代の企業間競争と独占・寡占
第 14 回	社会貢献と企業倫理
第 15 回	経済社会の豊かな発展に向けての企業の役割
第 16 回	期末試験

到達目標

経済社会をリードする企業の特質を、様々な企業や産業における企業活動の具体例などを通じて学ぶことで、企業の活動に対しての専門的な知識や技能を修得すると共に、わが国経済社会の今後を見通す能力を身につけることを目的とする。

履修上の注意

企業とは何かを理解することは、皆さんの今後の人生において重要な意味を持つと考えているので真摯に受講すること。

なお、講義内容を理解するためにも、遅刻せず受講すること。

予習・復習

日々の経済ニュース等で取りあげられている企業に関心を寄せるだけでなく、なぜ取りあげられているかを調べるといった習慣をつけることが、企業論における講義内容を理解する手がかりを得ることになる。復習としては、ニュース等で取りあげられている企業を講義内容と重ねるだけでなく、何が違うかにも目配りすることが重要である。

評価方法

期末試験の成績（80%）、受講態度（20%）により評価する。

テキスト

特に教科書は使用しない。

参考文献として、

加藤秀雄『外需時代の日本産業と中小企業—半導体製造装置産業と工作機械産業』新評論、2015年。

加藤秀雄『日本産業と中小企業—海外生産と国内生産の行方』新評論、2011年、をあげておく。